発刊を心から祝して

畏友桑山聖規師の若き日の奇しき足跡を述べられた「救いを求めて」の小冊子を涙の目をしばたゝきながら一気に読んで、厳しい修行に打克つ健気（けなげ）にも尊い師の姿に 仏（大師）を観る思いがいたします。

病と疲労で痩せ細る身体に氷った浄衣を腰に巻いて滝に入り、足が岩に氷り着き終に其の夜仮死状態の中から仏のお加護で蘇生した捨身修業の尊い此の玉編の巻頭の辞を求められ恐懼しつゝ、師をよく知る一人として心から祝辞を贈呈すると共に、この本が広く江湖愛読せられ修行者の貴重な参考書無限の力に、一般読者には仏教の理解書に又大きな救いの書となることを心から切望して推奨の辞といたします。

愛知県豊川市
陀羅尼山財賀寺
住　職　西　本　昭　道

降魔招福
大願
聖祝

はじめの御挨拶

この本は、転法輪寺の教化紙「転法輪」に投稿したものをまとめたものです。

私の少年時代の交通事故の遭難より救いを求めて入信し、佛に救われて発心し、大東亜戦争中の難病と戦い乍ら出家得度、敗戦と共に病気が悪化し、山中に参篭して捨身修行し、一時瀕死の状態になるも、奇跡的に救われた体験談。佛弟子として、懸命に大師の御教えを求めて実修し、漸く加持祈祷に霊験を得るようになった若き日の記録であります。

信仰がなければ昭和二十一年一月に此の世から消え去っていた私が、五十年後の今日も尚元気で、日々加持祈祷に専念し得る法幸。荒廃していた転法輪寺も漸く内外共に充実し、今年古希を迎えることができました事は、佛天の御加護と信者皆様のご支援の賜であります。

この小冊子を発行するに当たり、元高野山真言宗愛知宗務支所長　豊川市仏教会会長の要職を勤められた法兄　財賀寺住職　西本昭道僧正の祝詞推奨の辞を賜り花を添えて頂き光栄に存じます。

小僧の体験談が読者の信仰への点火になり、或いは迷いを拂う涼風にでもなれば望外の幸せであります。最後までお読み下さるようお願いいたし、はじめのご挨拶といたします。

平成七年十一月吉祥日

桑山聖規

（一）交通事故

昭和十五年、私の数え年十七歳の遭難……一
私を助けてくれるものはおらんのか……三
再度、寺の門をくぐる……四
日　参……五
般若心経を習う……六
寒　行……七
私は何をしたらよいか……八
きたないものをきれいにする仕事をせよ……八

（二）発　心

発心の波紋……一〇
家　出……一三
門前払い……一五

（三）試　練

試　練……一七
掃除の教え……一八
師僧の行為……一九
徴用令……二二
肺浸潤……二三
得度式……二五
師僧の応召……二七
平和の祈り……三〇
空襲が始まる……三一
戦死の公報……三二
山籠りの誘い……三三

（四）捨身修行

山の行場……三五
山の修行……三七
胃腸障害……三八
師の帰宅命令……四〇
反省……四一
捨身修行……四二
仮死状態……四三
おまかせの信心……四四
霊夢……四五
業障消滅……四六

（五）難病平癒

難病平癒……四八

歓喜の修行……四九
活気づいた山の行場……五〇
（六）火伏の修行
火伏の修行……五二
秋葉権現の大祭……五六
（七）高野山へ修学
高野山へ修学……五九
大師さまのみ教え……六二
（八）冬休み中の断食行
冬休み中の断食行……六五
大見諦禅僧正（安城市勝福寺）の教え……六七
初めての説法……七〇
初めてのお加持……七三

名古屋市内の巡回……七六
（九）専修学院卒業を目指して
出逢い……七八
三学期の修学……八一
再会……八二
玉川の水行……八五
（十）五條にご縁をいただく
下山……八七
三度目の奇遇……八八
真心の品々……八九
熱烈歓迎……九一
入寺……九二
救いとは何か……九五